



昭和学院 伊藤記念ホール

設計・日建設計

PCa折板構造のホール

木谷靖孫 | Yasuhiko Kitani

飯島敦義 | Atsuyoshi Iijima

刀禰尚子 | Naoko Tone

「伊藤記念ホール」は、昭和学院の創立70周年記念事業である、新キャンパス計画の中心となるプロジェクトとしてスタートした。学院

の創立者を記念し、幼稚園児から短大生まで学内の文化的な利用を想定したホールである。

初代理事長の邸宅として昭和6年に建設された創立記念館を、本ホールと一体利用ができるよう東隣に曳家し、改修を行った。結果、登録有形文化財の指定を受け、「伊藤記念ホール」と創立記念館を合わせ、学院のシンボルとしての強度が一層高まった。

式典や演奏会に使用される560人収容できるホールは、PCa折板構造とした。風致地区

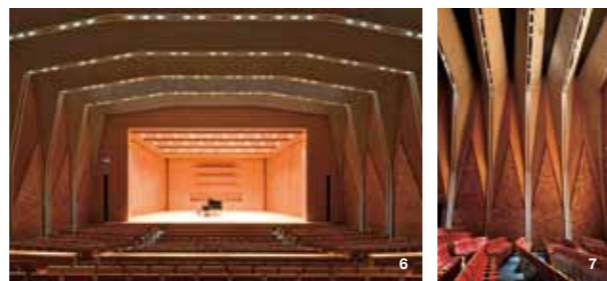
指定により高さ制限のあるこの敷地に対し、PCa折板構造の梁を意匠面として現したことで最大限の高さ(気積)を確保しつつ、大スパンの構造体を合理的に実現した。現場打ちコンクリートではなく、PCa折板構造を採用し、寸法精度、工期や施工性にも配慮した。この折板スリット内には照明を仕込み、折板内部をメンテナンス・スペースとして利用している。ホール内装壁面の設計においては、さまざまな角度の傾斜面により、豊かな音響空間を目指した。柱・梁をコンクリート、側壁と後壁面を





1—南面全景 | 2,5—ホワイエ | 3—エントランス
4—室内まで貫入する外壁 | 6—PCa折板構造のホール | 7—ホール側壁

8—南面夕景 | 9—ホワイエのタイルディテール



サクラ無垢ブロックで構成し、“音に包まれる感覚”を最優先に考えた。

ホール客席とホワイエ、ホワイエと外部オープンスペースとの関係性をそれぞれ大切に、建築的な平面構成(ダイアグラム)をボリューム配置へ直結させた。そのためホール客席部分の平面形状は音響特性を考慮して台形ボリュームとなり、隣接する会議室などの機能部分のボリュームもホールと同じく台形とした。結果的にこの建築には直角コーナーがなくなり、外壁タイル面のコーナー部も同様、直角ではなくなった。

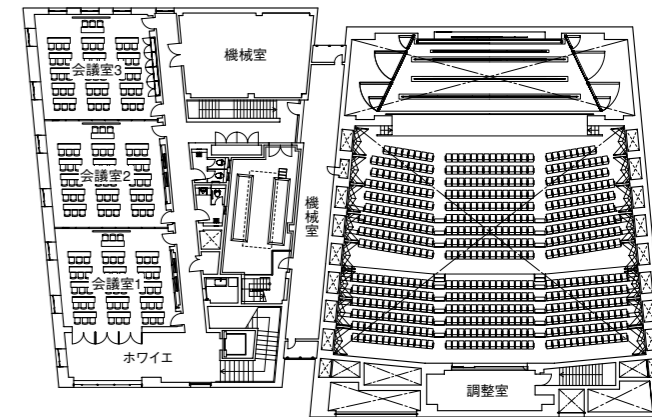
“学びの場”である学校のホールとして、内外装共に使用する材料の選定においては、素材そのものをダイレクトに表現することを第一義に考えた。原風景としての学校の記憶に、素材の持つ表情が大きく影響すると考えたからである。内装においては、ホールの客席側壁はサクラの無垢ブロックを積み上げた。サクラは、板取りされた位置によって色の差が大きく出る。心材と辺材、根に近い部分と先端に

近い部分では、材の色の幅は大きい。染色で色を変えるのではなく、同じ材の微妙な色の差を大切に。同様に、内外装として使用したタイルにおいても、均質な工業製品ではなく、できるだけ“やきもの”としての個性が出るものを求めた。焼成時の窯の中での位置や火のまわり方に影響を受けるねじれや反りなどの変化を最大限に活かした。その他、ホールへ入る2つの階段の内装に用いた木ブロックの透かし積みでも、一方は針葉樹のみ、もう一方は広葉樹のみを用いている。色や年輪の模様の違う樹種が、標本のように並んでいる。またホール扉には、現場で鉄錆塗装を施した。スチールの扉に鉄粉を混ぜた塗料を下塗りし、その上から酸性塗材を施し発錆させた。鉄そのものが持つ化学的性質までも表現した。

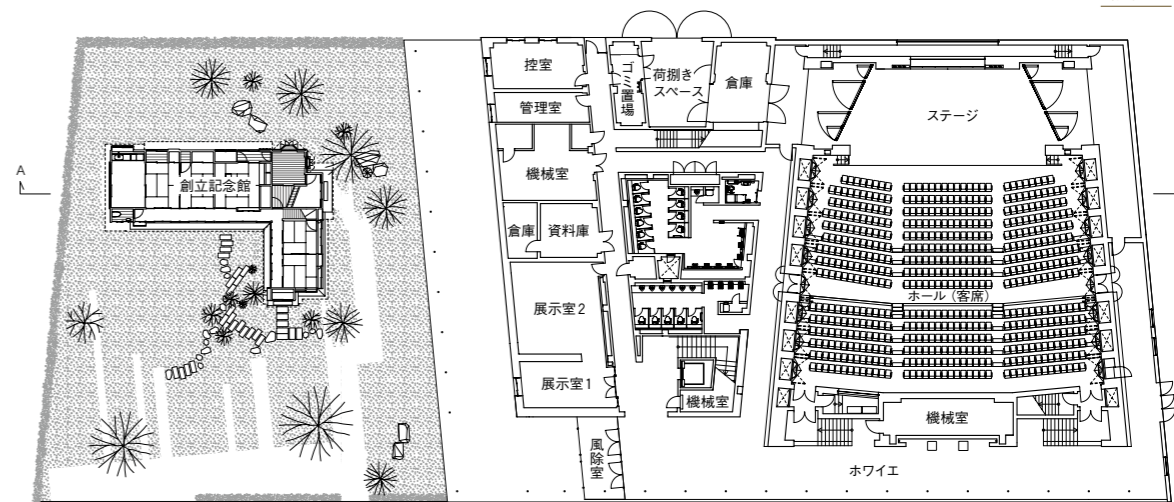
このように、木、タイル(土)、コンクリート、鉄といった建築を構成する素材の選定においては、その素材のあるべき姿を尊重し、意図的な加工を最小限にしようと思った。全体のダイアグ

ラムからそれぞれのディテールまでこの思想を徹底させ、子どもたちにとっての原風景となる建築を目指した。

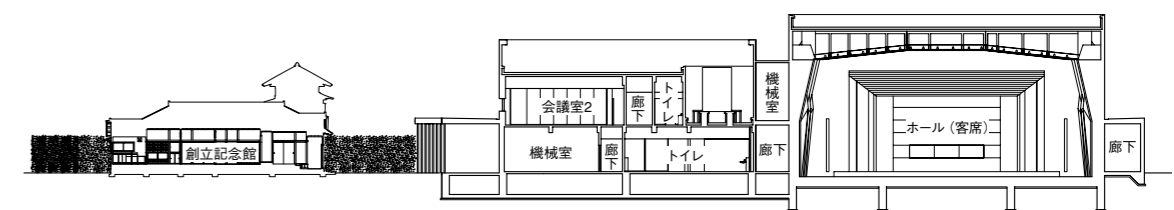
きたに・やすひこ——日建設計設計部門副代表/1953年生まれ。1977年、東京工業大学卒業。1979年、同大学大学院修士課程修了、日建設計入社。
主な作品:トヨタムラックス[1990]、群馬県総合スポーツセンター[2000]、東北学院中学高等学校[2005]、ベシアビジネスセンター[2006]など。
いいじま・あつよし——日建設計設計部門主管/1976年生まれ。1999年、早稲田大学卒業。2001年、同大学大学院修士課程修了、日建設計入社。
主な作品:半蔵門ファーストビル[2004]、六本木通ビル/ベルサル六本木[2008]、昭和学院短期大学附属栄養科学研究所[2010]など。
とね・なおこ——日建設計設計部門設計担当/早稲田大学卒業、同大学大学院修士課程修了。2003年、SANAA。2010年、日建設計。
主な作品:立教新座キャンパス新教室棟[2011]など。



2階平面図



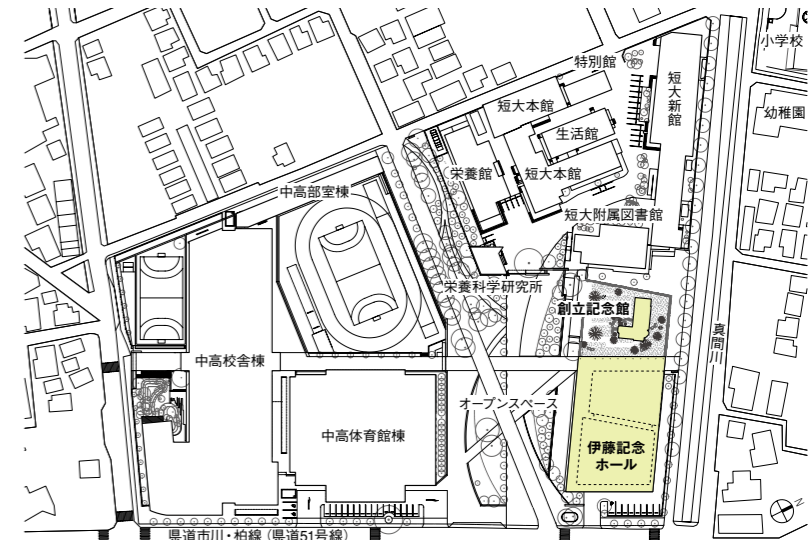
1階平面図 1/600



A-A'断面図 1/600



9



全体配置図 1/3,200

建築概要

名称:昭和学院 伊藤記念ホール | 所在地:千葉県市川市東菅野2-17-1 | 敷地面積:17,380.79m² | 建築面積:2,030.13m² | 延床面積:2,459.63m² | 規模:地上2階 | 構造:RC造、一部S造、PCa折板構造(ホール梁部分) | 工期:2007.8-2009.2 | 設計:日建設計 | 施工:大成建設

●INAX使用商品
外壁・内壁 | タイル: FC-11/Y080513101/276×60×15 || 外構床 | タイル: CB-210T/10